

「御前崎市学校再編についての広聴会」での意見

R4.6.18（土） 池新田地区センター 13：30～

参加者 19 名

- ・県内他市でも、学校再編問題が話題となっており、地域から学校が無くなってしまふのは地域に影を落とすことになる。しかし、現状をみると、御前崎市においても学校再編しなくてはならないと考えているのも理解できる。
- ・学校再編という問題は、すごく大きな問題なので検討委員に議員さんも入れる等、議会も一緒になって考えてもらいたい。

A 検討委員会は検討委員会として引き続きやっていきたい。また、今後は議会も含めて、進め方については相談をしながら進めていきたい。

- ・牧之原市の計画に伴い地頭方の子が相良の義務教育学校に離れていくが、白羽・御前崎で小中一貫校にしていくのか。例えば中学校を市内1つにして、浜岡中学校へ御前崎の方から通うにしても、相当な時間がかかると思う。これからいろいろなことが出てくると思うが、今分かっていることを伝えて欲しい。

A 白羽・御前崎どちらかの小学校を中学校にするとなると、白羽小学校・御前崎小学校どちらかの小学校が無くなってしまふ。それも含めて全く決まっていないので、いくつかの案を比較しながら検討していきたいと思う。まだこれから決めていくという段階。

ただはっきりしているのは、今の学校組合としての御前崎中学校は、2030年度を目途に地頭方小学校からの生徒が来なくなるので、その時点で無くなってしまふことは、はっきりしている。今後、それについての対応案を考えていく。

- ・このいろいろな計画について、子ども達にも意見を聴いているのか。

A 検討委員には、小さなお子さんをお持ちの保護者さんにも入っていただき意見をうかがった。今後保護者へのアンケートという形で行ってきたい。

・今後の学校再編スケジュールの中で進捗状況の報告を広報等で行ってほしい。
パブリックコメントの実施については、意見が寄せられやすいよう工夫してほしい。

A 素案ができた段階で、各地区で説明会等の開催を考えている。
パブリックコメントについては、多くの意見をいただけるよう広報等を行いたい。

・まず学校再編を考えるならば、出発点として「御前崎市の教育がどうあるべきか」という所からであって、その中で環境の変化により学校再編も選択肢となるという話だと思ふ。牧之原市云々ということではなく御前崎市としてどうあるべきかという問題だ。浜岡中学校と御前崎中学校の教育環境の格差は歴然であり、御前崎地区の人たちの教育をどうするかということも考えていくべきだ。
学校再編計画については、「未来が見え、御前崎市の子ども達の教育をどうする」という大きな構えの中、深く考えてほしい。

・見通しをもう少し具体的に示して欲しい。

A 皆さんの意見をいろいろな場面で聞きながら全てのことを決めていきたい。まず、素案の段階で整理をしていきたいと思う。

・私の居住するのは浜岡北小学校区で、人口がかなり減ってきているが、説明を聞くと、機械的に人数が減ったから合併・再編しようという話ではなかったので一安心した。人数が減ったから学校を無くすというようなことは、できるだけ避けて欲しい。他に、学童保育の問題、地域の中での部活動といった問題についても併せて考えて欲しい。

・旧町時代の悪しき浜岡中学校においては1町1中学校制であった。市になって2つの中学校が刺激し合っていることがいい効果を生んでいる。今後、子どもの数が少なくなっても、浜岡東小の子を御前崎地区の中学校へ行かせる等、1市2中学校制を維持してもらいたい。

A 最善の方法をこちらで検討していきたい。

・牧之原市では、小中一貫校で進んでいくとなっている。小中一貫校のメリットを教えてください。

A 9か年連続して運営していくため、教育課程を一貫して構成することができ中1ギャップの解消につながるのではないかと。また、学級数を安定的に確保することができ、きめ細やかな指導に繋げやすいのではないかと。と思う。

・御前崎市としては小中一貫校についてどのように考えているのか。

A 本市の現状では、小中一貫校というところまでは検討していない。

・友好都市の玉滝村は、最近中学校が合併するまで、在校生数人という状態で中学校が存在していたとのこと。そういう自治体がある中、御前崎市はなぜ今、学校再編

なのか。

- A 御前崎市の場合は、王滝村ほど人口は減っていないし、学校を統合するのかというところまでの話はできないと思う。子ども達にとってよい教育というものを皆さんと一緒に考えていきたい。

・生徒数学校数減少にかかる予算への影響はあるのか。

- A 1校当たりの予算の枠付けは、これからも考えていない。

・御前崎中学校の人員のキャパシティはどれくらいか。同じく浜岡中学校のキャパシティはどれくらいか。学校ではなく学区の再編は考えているのか。

- A 御前崎中学校は1学年5クラスくらいまで、1学級35人として525人くらい、浜岡中学校は1学年6クラスまでの計画で建てられている。学区の再編については、これからの検討事項の1つであるとは考えている。

・池新田高校再編の問題と今回のこの学校再編の話は関連があるのか。

- A 県立高校の問題と市の小中学校の再編の問題は、関係無い。

・池新田高校がもし無くなるとすると、その敷地について、全体として有益な形で使用して欲しい。

・2030 年から、地頭方の子ども達が相良の小中一貫校へ行くということでよいか。

A 2030 年度の開校目標ということで、牧之原市の学校再編計画に記載がある。

・資料8ページの表で、小学校児童数の予測最終年度と資料9ページの中学校生徒数の予測最終年度が違うのはなぜか。

A 小中学校共、現在出生している0歳児までの数字を基にしている。

・資料8.9ページの数字を見ると、R10以降に学校再編を考えているということによいか。

A 学校再編の時点は必ずしもではないが、色々な可能性や時点について、トータルで考えていきたい。

・学校再編計画は、牧之原市も作り、確かに他市も検討している。しかし理由は何か。それは大人の都合ではないか。最後の1人になるまで学校があってもいいのではないか。無理に統合する必要は無いと思う。それぞれの地区の伝統を守るのもよいのではないか。更に地域に開かれた学校にしていくべきでもあると思う。バス通学になるとコストがかかる。そういった情報も示すべきではないか。バス通学の子の体力は低いという意見もある。

・前の発言された方とは考え方が全く違ったので発言をさせてもらう。バス通学大いに結構。その先を見て、指導をし、学校再編計画を立てて欲しい。テレワーク・リモートの時代なのでそういった部分に重きをおいて考えて欲しい。私は、伝統だ何だということに囚われることのほうが親のエゴだと思う。

A 学校再編ありきで考えているわけではない。再編をするかどうかというところから考えている。ただ、御前崎中学校については、牧之原市の地頭方の子が抜けていくという中で、何らかの対応は考えておかなければならないと思っている。御前崎中学校に関するのと、市内の他の学校に関するとは全く別ではないが、分けて考えていったほうがよいと思う。

授業の形態については、リモート等の有効活用は時代背景的に重要だと考えている。一方、直に触れ合いやりとりすることも人間にとって必要な部分だと思っているので、どちらかに偏った形というのは好ましくないと思っている。子ども達に、人間と人間の付き合いの仕方を鍛えてもらうことも必要だと思うし、両方大切なことだと思う。

・この再編計画について後手後手だと感じる。理由は以下の4点である。

- 1 市合併の際、浜岡中学校と学校組合御前崎中学校の2つがあり、既に問題であった。
- 2 東日本大震災の際、津波浸水区域内にある地頭方小学校のあり方については、牧之原市が検討するのは明らかであった。
- 3 浜岡中学校の建替えの際、学校組合、旧御前崎町の子どものあり方について検討できなかったのか。
- 4 牧之原市の再編計画ができたから、御前崎中学校のあり方を考えるというのはおかしいのではないか。

以上は意見で、質問としては、牧之原市は小中一貫教育を進めていくということだが、御前崎市はどうか。

A 小中一貫校については、現状では考えていない。

理由は、4つ言われた中にもあったが、浜岡中学校はいわゆる中学校として存在している。これから小中一貫校や義務教育学校をつくるとなると、それに伴った建物が必要になる。言い方が難しいが、今となっては現実的に小中一貫校は難しいのではないかと考えている。選択肢としては、旧御前崎町側だけ、小中一貫校や義務教育学校にするというのはいり得るかもしれないが、同じ市の中では現実無いかなどと考える。

・小中一貫教育について、浜岡と御前崎それぞれであってもよいのではないか。

A 小中一貫教育・義務教育学校のメリットももちろんある。ただし、牧之原市も1学年3クラスをめぐりに計画をしている。同じ学校中で、クラス替えの無い状態では、子ども達にとって大変であり、1学年1クラスで9年間一緒にすごすとなると、いい面では関係が濃くなる一方、人間関係においてはその逆もある。どんな方法であっても、メリットデメリットがあり、総合的に検討していきたい。

教育委員会事務局に連絡をいただいた質問

- ・「学校再編計画」の策定にあたり、御前崎市のこれからの人づくり・学校づくりをどのようにしたいと考えているか。また、DX(デジタル変革)によりどのような授業風景になると想像しているか。

A 教育委員会では、『スクラムで取り組む「郷土を愛し、未来を創る人づくり」』を基本目標としている。基本方針は、「園・学校、家庭、地域などがスクラムを組んで協働することによって、思いやりがあって互いを認め合うことができ、たくましくしなやかな子供が育つこと」であり、市の特色を活かした教育や体験による愛郷心の育成を目指していきたいと考えている。

小学校については、学区の住民の方々と連携し、地域の人材を活かすとともに、学校支援ボランティアの御支援をいただきながら、地域に根付いた学校を目指す。学校規模の大小はあっても、その地域の特色が表れた教育を展開できればと思う。基礎学力を身につけることは勿論だが、読書や自然体験活動を大切にしたいと思う。

中学校については、高校等に進む前段階として、様々な学び（探究）、広い人間関係づくりの場となることを目指す。適正規模を確保し、専門教員を揃え、充実した教育施設の中で、基礎学力の定着、興味を持った分野での自主研究（ICT、図書館の活用）、できるだけ多くの仲間たちとの交流に励んでほしいと思っている。

次にDXによる授業風景だが、現在御前崎市ではGIGA スクール構想での1人1台端末が整いつつあるため、端末を利用した授業が進んでいる。今後は、ICT 端末の整備やデジタル教科書等のAI教材の導入等により、個々の最適な学びを提供しながら、児童生徒一人ひとりに寄り添った授業、また他校の児童生徒や地域の人々とのオンラインによる学びの授業など、様々な形での授業になっていくと思われる。

ただし、児童生徒同士の直接の会話や討論は、子どもたちの人間的成長のために欠くことのできないものと認識している。ICTを活用していくことは必須だが、子ども同士、子どもと教員の生の関わりは大切にしたいと思う。

- ・ 当日配布資料(P16)の7月の「教育委員会」は教育委員のことで、8～10月の「教育委員会」は教育部のことか。計画素案を実際に策定するのはどこか。また、計画素

案を議会に報告する前に教育委員に報告する必要があるのではないか。

- A 前半の部分についてはご指摘のとおりであり、7月の「教育委員会」は教育委員のことで、8～10月の「教育委員会」は教育部（教育委員会事務局）のこと。

また、計画素案を議会に報告する前に教育委員に報告する件については、スケジュールには入っていないが、計画素案を議会に報告する前に教育委員に報告する予定。